

日本におけるハイロチャツグミ *Catharus minimus* の初記録

橋 映州¹・岡村雄三²

1. 〒921-8133 石川県金沢市四十万町イ157

2. 〒282-0066 神奈川県横浜市六ツ川1-208-1-101

ハイロチャツグミ *Catharus minimus* は、チュコト半島からコリマ川流域のロシア極東域、アラスカやユーコン地方など北米大陸北部で繁殖し、中南米で越冬する種である(Mitchell & Young 1997).

2004年10月 6日から 7日にかけて、石川県輪島市海士町舳倉島(37°50'N, 136°55'E)において、ハイロチャツグミと思われる 1羽が浅見明博氏によって確認され、筆者らによって観察および撮影された(図 1)。この記録は本種の日本初記録だと思われるのでここに報告する。

本個体は、密生するメダケ *Pleiblastus simony* 群落の中を通る薄暗い道路上へ、一定時間において何度も出現し、採餌を行なっているところが観察された。

観察された個体はノゴマ *Luscinia calliope*, シマゴマ *L. sibilans* に似た体型で、胸を張って尾を少しあげた姿勢を保ち、また、しきりに尾を振り上げ、同時に翼を小さく開く動作をくり返していた。メダケ群落の中では時々、tye-tyeまたはtyi-tyiと聞こえる、警戒声と考えられる鳴き声が聞かれた。

外部形態は、ノゴマよりも大きく、クロツグミよりは小さく、両者の中間的な大きさであったことから、体長は18~20cmであると考えられた。

体上面は灰色味をおびたオリーブ褐色で、上尾筒から尾羽にかけては体上面よりやや淡色のオ



図 1. ハイロチャツグミと思われる個体(2004年10月 6日撮影).

Fig. 1. The observed individual of Gray-cheeked Thrush on Hegura Island (October 6, 2004)

2003年 2月24日 受理

キーワード: 石川県, 日本初記録, ハイロチャツグミ, 舳倉島

リーブ褐色であった。体下面は白色で、胸には黒い斑点があり、脇は地色が灰褐色で、斑点がくすんでいた。頬から喉にかけて灰色味が強かった。目先は白っぽく、目の周囲も不明瞭な白いアイリング状をなしていた。喉は白く、黒い顎線があった。下嘴の先端と上嘴は黒く、下嘴基部は黄褐色で目立った。脚は長く、暗肉色であった。翼下面には白色部がみられた。たたんだ翼において、三列風切の外側からみえる部分の長さ、初列風切の三列風切を越えてみえる部分の長さの比は、写真から判断するとおおむね 1:1 だった。大雨覆と中雨覆の先端に淡色斑があった。

チャツグミ属 *Catharus* はおもに南北アメリカに分布し、北半球の冷温帯から温帯産ではハイイロチャツグミを含め、ブルーチャツグミ *C. fuscescens*, オリーブチャツグミ *C. ustulatus*, チャイロコツグミ *C. guttatus*, イスパニオラチャツグミ *C. bicknelli* の 5 種がある (Clement & Hathway 2000)。

ハイイロチャツグミは、体上面から上尾筒にかけて一様に茶色がかった灰色がかかったオリーブ色で、頬は灰褐色、淡色のアイリングは不明瞭で、喉は白く、胸の上部から下部に明瞭な黒い斑点があり、脇は茶色っぽい灰色であり (Pyle *et al.* 1987), また、嘴全体は黒か濃い茶色だが、下嘴の基部から2分の1から3分の2にかけてと上嘴の後端は黄色っぽく、脚は淡桃色、淡茶色、淡灰褐色、淡黄色などであり (Cramp 1988), これらの特徴は本個体と一致した。

ブルーチャツグミは体上面から上尾筒にかけて一様に赤茶色で、体下面には胸の上部に赤茶色の不明瞭な斑点がある点でハイイロチャツグミとは異なる (Clement & Hathway 2000)。オリーブチャツグミはハイイロチャツグミより、頬と耳羽の一樣なオリーブ色の部分の面積が小さく、目の周りや目先の白っぽさが少なく淡色で、体上面のオリーブ色は鈍く、胸の下部の横側と脇の灰汚色の斑点はやや小さく、そして結合している点で異なる (Clement & Hathway 2000)。チャイロコツグミは、尾の茶色の暖かさや朽葉色の色合いが乏しく、それが体上面にも現われ、顔は灰色で、胸の下部と腹の上部の黒い斑点が反転していない点で、ハイイロチャツグミとは異なる (Clement & Hathway 2000)。イスパニオラチャツグミはハイイロチャツグミより、上尾筒の色がわずかに暖かいオリーブ褐色で灰色みに乏しく、喉はより淡黄色で、体下面の色が鈍い点で異なる (Clement & Hathway 2000)。

これらのことから、本個体はハイイロチャツグミの他のチャツグミ属 4 種とは異なるものであった。

Catharus 属の第一回冬羽では、他の多くのツグミ類と同様に、大雨覆の羽先に白色部があるとされるが (Pyle *et al.* 1987), 今回観察された個体の大雨覆の羽先にも白色部があったため、第一回冬羽と考えられる。

本種はイスパニオラチャツグミも同種として、*C. m. minimus* と *C. m. bicknelli* の 2 亜種とする考え方 (Mayr & Paynter 1964) や、イスパニオラチャツグミは別種としたうえで残りを亜種なしの *C. minimus* とする考え方 (American ornithologists' union 1998), 同様に、残りをカナダ、アラスカ、東北シベリアに分布する亜種 *C. m. aliciae* とニューファンドランド島周辺に分布する亜種 *C. m. minimus* の 2 亜種に分ける考え方 (Lane & Jaramillo 2000) などがある。

本個体は、上述での特徴から、狭義のハイイロチャツグミ *C. minimus* と考えられる。亜種に分ける場合には、どの亜種にあたるかは不明だが、分布からみると、西側に分布する *aliciae* の可能性が

高い。

念のため、本個体の写真を世界のツグミ類の図鑑(Clement & Hathway 2000)の著者である Peter Clement 氏に送って意見を求めたところ、「頬から耳羽にかけての灰色の部分が、頭頂と上面のオリーブ色をなしていることから、ハイロチャツグミと考えられ、大雨覆と中雨覆の先端の淡色斑から、第一回冬羽である」という返信を得た。

ハイロチャツグミが日本国内に輸入された記録はなく(日本野鳥の会 2005)、また、本個体には風切や尾羽の極端な磨耗、嘴先端の伸長、あしゆびのコブ等の飼育の兆候は認められなく、これらのことを考え合わせると、本個体は籠抜け鳥とは考えにくい。

以上のことから、本個体はハイロチャツグミであり、今までに国内でハイロチャツグミが記録されたことはないため、今回が国内におけるハイロチャツグミの初記録だと考えられる。

引用文献

- American ornithologists' union. 1998. Check list of North American Birds 7th ed. A. O. U., Washington D. C.
- Clement, P. & Hathway, R. 2000. Thrushes. Christopher Helm, London.
- Cramp, S. 1988. Handbook of the Birds of Europe the Middle East and North Africa Vol. V. Oxford University Press, New York.
- Lane, D. & Jaramillo, A. 2000. Identification of *Hylocichla Catharus* Thrushes Part3: Gray-cheeked and Bicknell's Thrushes. *Birding* 32(4): 318-331.
- Mayr, E. & Paynter, R. A. 1964. Check-list of Birds of the World Vol. X. Museum of Comparative Zoology, Cambridge.
- Mitchell, D. & Young, S. 1997. Photographic Handbook of the Rare Birds Britany and Europe. New Holland, London.
- 日本野鳥の会. 2005. バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査(野鳥保護資料集第18集). 日本野鳥の会, 東京.
- Pyle, P., Howell, S. N. G., Yunick, R. P. & DeSanto, D. F. 1987. Identification Guide to North American Passerines. Slate Creek Press, California.

The first record of the Gray-cheeked Thrush *Catharus minimus* in Japan

Eishu Tachibana¹ & Yuhzo Okamura²

1. 157 I, Shijima, Kanazawa, Ishikawa 921-8133, Japan

2. 1-208 Mutsukawa, Yokohama, Kanagawa 282-0066, Japan

A Gray-cheeked Thrush *Catharus minimus* was observed for the first time in Japan on October 6-7, 2004 on Hegura Island, Ishikawa Prefecture.

The thrush was grayish olive-brown on the back and slightly paler olive-brown from upper tail coverts to tail. The underparts were white with black specks on the breast and grayish brown on the sides, which made the specks indistinct. The bird was more grayish from cheek to throat. The lore was whitish and there was an indistinct white eye-ring. The throat was white with a black stripe mesial. The upper mandible and the tip of the lower mandible were black and the rest of the lower mandible was conspicuously yellowish brown. The legs were long and dark pink in color. These characteristics correspond to those of Gray-cheeked Thrush but are different from those of Veery Thrush, Swainson's Thrush, Hermit Thrush and Bicknell's Thrush. The bird was considered to have first-winter plumage because the tips of the greater upper wing coverts were partly pale.

There are no records of Gray-cheeked Thrushes having been imported into Japan and the absence of signs of captivity suggested that the thrush was a wild individual. We thank Dr. Peter Clement who identified the photographs of the thrush as a Gray-cheeked Thrush with first-winter plumage.

Key words: Cathrus minimus, first record in Japan, Gray-cheeked Thrush, Hegura Island